

製品名: GRB10 (リン酸化Tyr67) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04743**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	67kDa

抗原情報

遺伝子名	GRB10
別名	GRB10; GRBIR; KIAA0207; Growth factor receptor-bound protein 10; GRB10 adapter protein; Insulin receptor-binding protein Grb-IR
遺伝子 ID	2887.0
SwissProt ID	Q13322
免疫原	抗血清は、ヒト GRB10 の Tyr67 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 33-82

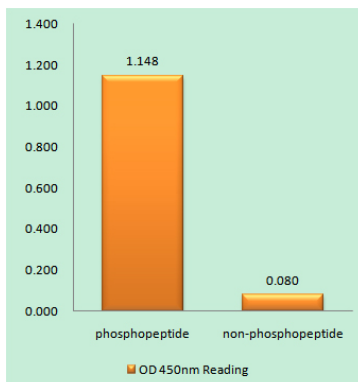
背景

この遺伝子産物は、多数の受容体チロシンキナーゼおよびシグナル伝達分子と相互作用することが知られているアダプタータンパク質の小規模ファミリーに属します。この遺伝子は、インスリン受容体およびインスリン様成長因子受容体と相互作用する成長因子受容体結合タンパク質をコードします。コードされているタンパク質のいくつかのアイソフォームの過剰発現は、チロシンキナーゼ活性を阻害し、成長抑制をもたらします。この遺伝子は、アイソフォームおよび組織特異的にインプリントされており、脳では父方アレルから、胎盤栄養芽細胞では母方アレルから発現が観察されます。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが同定されています。[RefSeq 提供、2010年10月]、代替産物：追加のアイソフォームが存在するようです、機能：インスリンおよびIGF-Iシグナル伝達において機能的な役割を果たします。インスリン受容体およびIGF-I受容体を、未解明の分裂促進シグナル伝達経路に正に結びつける役割を果たす可能性がある。自己リン酸化インスリン受容体の細胞質ドメインと相互作用し、その後阻害される。この相互作用はSH2ドメインを介して媒介される。また、活性化血小板由来成長因子受容体および上皮成長因子受容体にも結合する。類似性：GRB7/10/14ファミリーに属する。類似性：PHドメインを1つ含む。類似性：Ras関連ドメインを1つ含む。類似性：SH2ドメインを1つ含む。サブユニット：GIGYF1/PERQ1 および GIGYF2/TNRC15 と相互作用する。組織特異性：骨格筋で高発現する。、

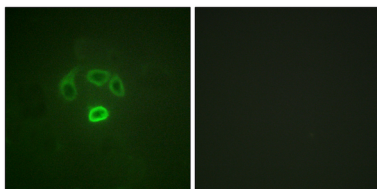
研究分野

幹細胞経路; インスリン受容体

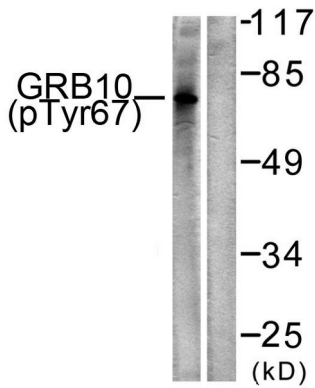
画像データ



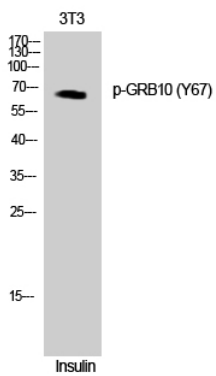
GRB10 (リン酸化 Tyr67) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



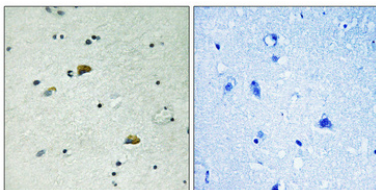
GRB10 (リン酸化 Tyr67) 抗体を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



インスリン 0.01U/ml を 15 分間処理した NIH/3T3 細胞のライセートを GRB10 (リン酸化 Tyr67) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 GRB10 (Y67) ポリクローナル抗体を用いた COLO 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。